

○事業内容				
・事業概要				
事業名	勝どき駅改良事業		整備区間	大江戸線 勝どき駅
供用年度	新規事業採択時	平成 27 年度 (建設期間 平成 22 年～27 年)	再評価時	平成 30 年度 (建設期間 平成 22 年～32 年)
総事業費	新規事業採択時	80 億円 (平成 21 年度価格)	再評価時	108 億円 (平成 26 年度価格)
供用年度・ 総事業費を 変更した理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地下に支障物が見つかり、撤去工事に時間と費用を要した ・詳細な地質調査の結果、地盤改良工事の追加が生じ、時間と費用を要した。 ・地盤が想定以上に固く、掘削工事に時間と費用を要している。 ・増加するお客様の流れが工事期間中スムーズになるよう、さらなる流動を確保するために施工手順を見直したことで、時間と費用を要する。等 			
・事業の目的				
<p>《当該事業の背景、必要性》</p> <p>都営大江戸線勝どき駅は平成 12 年度の開業当初は一日平均乗降人員が約 2.8 万人であったが、駅周辺の再開発の影響などによる夜間人口および従業人口の急増により、平成 25 年度では約 9.1 万人にまで増加している。このような想定を上回る利用者の増加に伴い、朝ピーク時には降車客による混雑が生じ、乗車客の流動に影響を与える状況も発生し、また列車の運行に支障するまでの状況となった。</p> <p>《事業目的》</p> <p>ホーム増設、コンコースの改良、出入り口の新設を実施することにより、駅の混雑を解消することを目的とする（平成 22 年度より改良事業に着手）</p> <p>《関連する政策目標》</p> <p>国土交通省政策評価基本計画(平成 26 年 3 月) 政策目標及び施策目標 政策目標 8 都市・地域交通等の快適性、利便性の向上 施策目標 26 鉄道網を充実・活性化させる</p> <p>東京都交通局経営計画 2013(計画期間 平成 25～27 年度) 質の高いサービスの提供「駅・車両・停留所の快適性の向上」に位置付けている。</p> <p>東京都長期ビジョン(平成 26 年 12 月発表) 都市戦略 2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現 「安心して快適に利用できる交通」に、勝どき駅の大規模改良：平成 30 年度供用開始を位置付けている。</p>				
＜事業の必要性等に関する視点＞				
○事業を取り巻く社会経済情勢等の変化				
<p>勝どき駅周辺の人口については、新規事業採択時の平成 21 年と比較し、夜間人口が 1.2 倍、従業人口については微減となっている。今後、新規事業採択時の想定を上回る住宅開発が予定されており、夜間人口の更なる増加が見込まれる。また、平成 32 年には東京オリンピック・パラリンピックが開催予定であるが、駅勢圏である晴海地区に選手村の建設が予定されており、オリンピック終了後には住宅へ転用予定である。</p>				
○事業の投資効果（事業による効果・影響の評価、費用便益分析、採算性分析）				
評価項目	評価結果			
	効果・影響および指標、事業目的との関係			

■利用者への効果・影響	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行速度の向上や滞留待ち時間の減少による勝どき駅乗降者の駅構内移動時間の短縮(移動時間:現況で利用者数が最大の「月島寄り昇降部經由 A2b 出口出場」ルートで最大 115 秒短縮される。また、最も短縮時間の大きい「中央昇降部經由 A3(改良後 A5) 出口出場」のルートで最大 235 秒短縮される。) ・乗降時間の短縮(遅延防止)による勝どき駅通過客の乗車時間短縮(最大約 2 秒短縮) ・歩きやすさの快適性向上 ・バリアフリー性の向上 					
■供給者への効果・影響	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベータ、エスカレータ増設、改札口増設によるランニングコストの増加 					
■社会全体への効果・影響	<ul style="list-style-type: none"> ・駅処理能力の向上による駅周辺の移動利便性の向上 ・イベント交通への対応力向上 ・混雑等の緩和による安全性の向上 					
■費用便益分析[平成 26 年度価格] 計算期間:30 年(50 年)						
・事業全体						
費用	94.2 億円 (94.6 億円)		貨幣換算した主要な費用:事業費			
便益	186.6 億円 (229.7 億円)		貨幣換算した主要な便益:移動時間短縮			
費用便益比 B/C	1.98 (2.43)	純現在価値 NPV	92.4 億円 (135.1 億円)	経済的内部収益率 EIRR	10.2% (10.6%)	
(備考)供用開始年次が変更されたこと、工事費が増加したこと、ならびに費用便益分析を行うための所要時間を算出するモデルを最新データに見直したこと等により、B/C が新規事業採択時の 4.06 より減少した。						
・残事業						
費用	継続した場合 58.7 億円 (59.1 億円) 中止した場合 6.7 億円 (6.7 億円)					
便益	継続した場合 186.6 億円 (229.7 億円) 中止した場合 0 円 (0 円)					
費用便益比 B/C	3.18 (3.89)	純現在価値 NPV	127.9 億円 (170.6 億円)	経済的内部収益率 EIRR	20.1% (20.1%)	
・感度分析結果	需要(+10%)		費用(+10%)		建設期間(+1 年)	
	B/C	2.99(3.68)	B/C	1.80(2.21)	B/C	1.96(2.39)
	NPV	187.1 億円 (253.2 億円)	NPV	82.9 億円 (125.6 億円)	NPV	88.3 億円 (130.2 億円)
	EIRR	14.7%(14.8%)	EIRR	9.2%(9.7%)	EIRR	9.7%(10.0%)
	需要(-10%)		費用(-10%)		建設期間(-1 年)	
	B/C	1.62(1.99)	B/C	2.20(2.70)	B/C	2.02(2.48)
NPV	58.7 億円 (93.5 億円)	NPV	101.8 億円 (144.6 億円)	NPV	97.4 億円 (141.9 億円)	
EIRR	8.2%(8.8%)	EIRR	11.3%(11.7%)	EIRR	10.9%(11.3%)	
「中止した場合の状況」	原状復旧として以下の工程を実施すると想定。 支保工撤去、埋め戻し、埋設物復旧、路面覆工撤去、杭抜き、路面復旧					
上記分析の基礎とした需要予測 勝どき駅乗降人員 平成 30 年 10.2 万人/日、平成 33 年 11.3 万人/日						
○事業の進捗状況						
<p>工程のうち、埋設物移設・杭打・路面覆工・地盤改良までが終了し、現在掘削を行っている。新規事業採択時の工程では、平成 26 年度中に駅構内の工事に取り掛かる予定であったが、地下に支障物が見つかり撤去工事に時間を要したこと、詳細な土質調査の結果地盤改良工事の追加が生じたことにより遅れが生じた。掘削についても、地盤が想定以上に固く掘削工事に時間を要する予定であり、全体の工期が平成 32 年度まで延びる見込みである。</p> <p>そのため、ホームの新設およびコンコースの一体化が完成する平成 30 年度の段階で供用を開始し、残工事が平成 32 年度まで残るものの、改良工事の効果については平成 30 年度より発現で</p>						

きるよう工事手順を見直している。

＜事業の進捗の見込みの視点＞

事業の実行性	事業に必要な関連自治体等の同意及び法手続きは完了し、工事に取り組んでいるところである。 今回の大規模改良により新たに築造する構造物は全て道路下となっており、現在は周辺環境に影響を与えないよう仮設工を完了し、掘削を行っている段階であり、工事を着実に進捗させていく。
事業の成立性	新規事業採択時の、駅の混雑緩和という目的の達成に加え、平成 26 年 12 月に発表された東京都長期ビジョンにも位置づけられており、引き続き完成に向けて取り組んでいく重要な施策である。

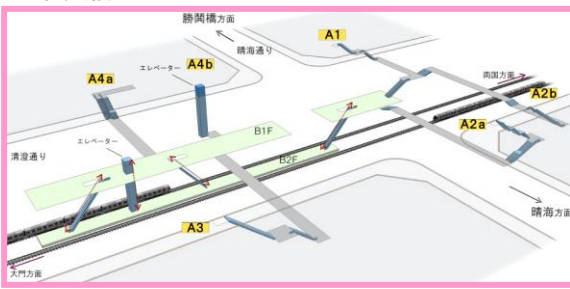
＜コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点＞

今回変更した事業費は、事業の中盤を迎え、建築・設備工事の詳細設計も概ね完了し、物価の高騰等を踏まえ、十分精査された事業費であり、妥当な金額と考える。今後は、今回見直した計画通りに速やかに事業を進捗させることが最適と考える。

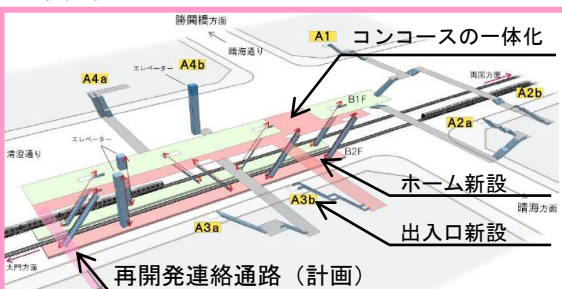
また、今回の改良により朝ラッシュ時の各ホーム⇄コンコース間各昇降部など個別箇所の利用人員は現状より大きく減少し、駅の混雑が緩和されるため、今後、東京オリンピック・パラリンピック選手村跡地の住宅利用等による利用人員の伸びを考慮した場合も含め、対応可能と考える。

○概要図(位置図)

＜改良前イメージ＞



＜改良後イメージ＞



○対応方針(評価結果のまとめ)

本事業をめぐる社会情勢等の変化及び事業の進捗状況を踏まえ再評価を行った結果、事業の妥当性を確認したため、事業を継続したいと考える。

○事業評価監視委員会の結論・意見

委員会の結論：事業継続を妥当と判断する
委員会の意見：・勝どき駅周辺は今後も開発計画が進む予定であり、また交通ネットワークの変化も考えられることから、その動きについて引き続き注視されたい。
・本事業を予定通り完成させ、効果の発現を図っていただきたい。

○備考

- ※評価実施時期
平成 26 年度
- ※評価の過程で使用したデータ、文献等
 - ・混雑状況把握調査(H26. 12. 17 実施)
 - ・東京都統計年鑑、国勢調査、経済センサス 等
 - ・鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル 2012 年改訂版
- ※評価の体制(有識者の委員会等)
大江戸線勝どき駅に関する東京都交通局事業再評価委員会を設置した。